

平成 25 年 8 月 14 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長 田代 宗雄
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 執行役員 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

特別利益の計上予定の変更、負ののれん発生益の計上及び持分変動利益の計上
並びに平成 25 年 9 月期通期（連結）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 25 年 5 月 15 日にお知らせいたしました特別利益の計上予定につきまして、当該会計処理の変更を行うこと、負ののれん発生益を計上すること及び持分変動利益を計上することとなりましたのでお知らせいたします。

又、それに伴い平成 25 年 5 月 15 日に公表いたしました平成 25 年 9 月期（平成 24 年 10 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日）の通期の連結業績予想につきまして下記のとおり修正することといたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 特別利益（投資有価証券売却益）の計上予定の変更およびその内容

平成 25 年 5 月 15 日に開示いたしました投資有価証券の売却について、当第 3 四半期の連結財務決算において 10 億 5 百万円の投資有価証券売却益を特別利益に計上する予定でしたが、決算を確定するにあたり改めて当該取引内容・形態を慎重に検証した結果、特別利益に計上するのではなく、会計処理として、含み益として処理することが適切であると判断いたしましたので、当該投資有価証券売却益の計上を行わないことといたしました。

2. 特別利益（負ののれん発生益）の計上およびその内容

前項に記載の処理の結果、純資産価額と比較して大幅に低い価格で有価証券を取得することとなりましたので、純資産額より安く購入した金額につきましては、連結決算の手続き上、「負ののれん発生益」が生じることとなりました。当該処理に伴い、特別利益に 2 億 58 百万円計上することとなりました。

3. 特別利益（持分変動利益）の計上およびその内容

当第 3 四半期の連結財務諸表上において、子会社の少数株主のワラントの権利行使に伴い、持分変動利益 72 百万円が発生することとなりました。

4. 平成 25 年 9 月期 通期連結業績予想の修正（平成 24 年 10 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,500 百万円	1,250 百万円	1,250 百万円	1,400 百万円	5,187.26 円
今回修正予想(B)	4,900 百万円	950 百万円	1,050 百万円	650 百万円	2,402.98 円
増減額(B-A)	400 百万円	△300 百万円	△200 百万円	△750 百万円	
増減率 (%)	8.9%	△24.0%	△16.0%	△53.6%	
(ご参考)前期実績 (平成 24 年 9 月期)	3,319 百万円	842 百万円	894 百万円	172 百万円	638.31 円

5. 修正の理由

平成 25 年 9 月期通期連結業績予想につきましては、第 3 四半期連結累計期間までの進捗状況と第 4 四半期の見込み数値を鑑み、売上高は前回発表を 4 億円上回る 49 億円、営業利益は前回発表を 3 億円下回る 9 億 50 百万円、経常利益は 2 億円下回る 10 億 50 百万円にそれぞれ修正いたします。当期純利益につきましては、上記に記載しました投資有価証券売却益の計上予定の変更並びに負ののれん発生益の計上に伴い、前回発表を 7 億 50 百万円下回る 6 億 50 百万円に修正いたします。

注釈

*負ののれん・・・株式を純資産よりも高い価格で取得すると、純資産と買取価格の差が「のれん」として無形固定資産として計上され、数年に渡り定期的に償却を行うこととなります。

これに対してまれに株式を純資産よりも低い価格で取得した場合に計上されるのが「負ののれん」と言われ、取得時に一括にて、特別利益を計上します。

この度、当社としましては特別利益を計上せず、負ののれん発生特別利益を計上することになりました。当該変更のデメリットならびにメリットは以下の通りになります。

メリット・・・今後、数年間に起こるのれんの償却による利益押し下げがなくなる

*例えば、約 8 億円がのれんに計上されたとし、7 年間で償却するとすると

年間 1.1 億円の経費増となりますが、これが発生いたしません。

デメリット・・・今期の特別利益から約 8 億円相当を減少させる

以 上